

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年5月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900150
法人名	医療法 慈和会
事業所名	大口病院グループホームつどい
所在地	鹿児島県伊佐市大口大田124-3番地 (電話) 0995-23-0820
自己評価作成日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症治療病棟、重度認知症患者デイケアを有する精神科病院を母体とする医療法人によって開設されたグループホームです。定期の主治医の診療以外に内科医による月2回訪問診察、病院看護師の定期的訪問、緊急時24時間連絡対応出来る他、重度認知症患者デイケアの利用で専門職によるリハビリを継続できます。

広い敷地内には生活訓練施設、障害者グループホーム、就労支援施設、カフェレストランもあります。就労支援の一環である有機農園、パン工房、鶏舎から入手した新鮮で体に優しい食材をつどいでも毎日提供しています。年間の行事として、季節の花や野菜植えを楽しみ収穫した野菜が食卓に上がったりします。又隣接する保育園は、園児達の散歩コースになり挨拶交流する機会があります。

季節を感じてもらうために季節行事を大切にするとともに、入居者の方々が安心安全に穏やかな生活を送ることが出来るよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は広い敷地の一角にあり、農園や鶏舎・パン工房等に隣接して建てられている。農園の広々とした空間の広がりや季節の移り変わりを感じられる環境である。
- ・母体医療機関の訪問診療及び看護師訪問により24時間の医療連携体制が整っており、利用者・家族の安心に繋がっている。法人では職員の派遣協力体制があり、eラーニングを活用して研修・業務管理等が行われている。
- ・管理者は、資格取得・研修受講を支援し職員の資質向上を図ると共に、職員間のコミュニケーションをはかり、働き易い職場環境作りに積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	方言を用いた独自の理念を掲げ、ホールリビングやスタッフ室に掲示し、つどい会議時、声に出しスタッフで確認している。	事業所独自の理念を、事務所・リビングに掲示し、パンフレットにも掲載している。毎月の会議時に唱和し理念の確認とケアの振り返りを行ない、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の加入、近くの保育園児や近所の商店等との交流がある。	自治会に加入し、年2回の清掃活動に参加している。近所の商店に買い物に出かけたり、保育園児が散歩時に手を振ってくれたり、地域から野菜の差し入れ等もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	保育園児と病院グランド等での交流や行事等外出、又散歩の際、地域の方との挨拶を交わしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しているが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染対策により感染状況に応じての開催となった。参加者は、利用者家族代表、自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員、病院関係者である。利用者状況、ホームの行事・活動内容、ヒヤリハット・事故報告、取り組み等を報告し、意見交換を行いホームのサービス向上に努めている。	コロナ感染防止の為、2ヶ月毎の運営推進会議を书面での開催や法人の会議室で開催し、活動報告や現状報告・ヒヤリハット・外部評価結果報告を行い、意見交換している。委員から身体拘束についての質問で、事業所の取り組みを説明し理解してもらったり、コロナワクチン接種について、情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会や運営推進会議にて、連絡報告等、意見交換を行い連携を図っている。その他、必要なことは、随時、電話で確認したり、窓口に出向き、確認報告を行っている。福祉事務所、生活保護の担当者との連携も図っている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議や地域密着型サービス連絡協議会で意見交換を行ったり、必要時は電話や出向いての相談・報告で密接に連携している。生活保護担当者とも協力関係を築いている。ズーム研修等に参加予定である。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアル等で何が拘束なのかを確認共有し、拘束のないケアを目指している。玄関へは施錠せず利用者の居場所確認をスタッフ間で声掛け申し送る。又随時、拘束にあたらぬかをスタッフで確認している。外に出ることを止める事でストレスにならないように、随時、散歩を行ったり等気分転換を図っている。</p>	<p>指針を基に委員会を開催し、研修会は年2回実施している。特にスピーチロックは、職員全員の注意を促している。玄関の施錠はせず、外に出たい場合は一緒に散歩をしたり、敷地内の法人職員の連携・協力をもらい、行動を制限しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修参加や新聞TV等から虐待について学び確認している。何気なく利用者に言った一言でも虐待に当たらないか、傷ついていないか、言葉の暴力にならないかを常にスタッフ間で気を付けながら対応している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対象者となる方はおられない。成年後見制度について、勉強会・研修会にて、学ぶ機会を持ち、必要な時は支援を行ってきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、本人・代理人のご家族へ契約書・重要事項の説明、個人情報保護、利用料金等の説明を行い、同意を得て署名押印を頂いている。又退居時は、ご家族へ説明を行い、理解納得を得て転居先への相談・支援をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時、サービス担当者会議、運営推進会議等で意見や要望を伺い、スタッフ間で共有・検討している。</p>	<p>利用者には、日頃の会話の中から要望等を聞いている。家族には、会議や来訪時に意見等を聞いて対応しており、対面での面会希望については、コロナ感染防止の為、理解を得られるよう説明している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議・ミーティング、申し送り等で出た意見をスタッフ間で確認し、要望等は運営者に出している。</p>	<p>会議やミーティング時に職員の意見等を聞く機会を設けている。接遇研修等で職場環境改善に取り組んでいる。個別相談は管理者が受けて個々に対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>資格取得の支援と2019年4月1日より施行された年5日の有給休暇の取得の義務化として、確実に全職員が取得するよう有給休暇取得計画表の調整・管理を行っている。又勤務時間外の労働が発生した場合、時間調整や手当支給で対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の知識向上、勉強のために、法人内・外部研修への参加を積極的に勧めている。外部研修後は、ホーム内の勉強会で報告・意見交換を行い、職員の知識・ケアの向上に役立てている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会へ加入し、研修・事例検討会・講演会等へ参加し、同業者との交流・情報交換を行い、ケアや取り組みに活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談時、まずご本人にホーム内の施設見学をして頂き、面談は緊張せずゆったりとした雰囲気作りで話しが聞けるような雰囲気作りを努めている。ご本人が利用に納得されてから、日中やお泊まりの体験利用（在宅の方や大口HP入院患者様の場合のみ）をして頂いている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学や入所前の面談時、ご家族から情報収集を行い、要望等伺い、どういう支援が必要かニーズ等を関係者で検討し、安心して入所できるよう対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホームの生活状況を見てもらい、本人家族が不安に思っていること等伺い、その方のニーズの把握に努める。今後、必要とした場合の支援については、本人・家族に確認している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の方より昔話や生活の習わし等伺い日々の生活や行事の際に取り入れたりしている。利用者スタッフ間で感謝の言葉が自然と出るような関係作りを努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時（現在、新型コロナウイルス感染対策により面会制限中）、本人とゆっくりお部屋で過ごして頂く。その際、日々の様子や健康状態の報告を行う。又ご家族からの意見を伺い、ご本人が安心して過ごせるようご家族と一緒に検討し、対応している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>親戚や知人の面会（窓越し面会）があったり、関係が続くよう支援している。</p>	<p>家族・知人等の窓越し面会や電話での交流で馴染みの関係を大切にしている。事業所からも毎月「つどい便り」を送付し、関係が途切れないように努めている。近所の店に買い物に行ったり、訪問美容師の利用も継続している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者間の円滑な関係作りのためにスタッフが会話のサポートをしたりする。レク活動参加は全員参加以外に小グループや個人で各自の好み合った物をおしゃべりしながら行っている。口腔体操等声を出す事で会話の機会や頭の体操にもなり皆さんで楽しみながら参加出来ている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院されたら入院中面会に伺い病院関係者に状態や様子を確認したり、又家族と連絡を取り合い情報共有を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症により意思疎通が困難な場合は、日常の関わりや表情・言葉から、その方が何を望んでいるか、思いを感じ取るように努めている。又その事は介護支援経過記録に記載するようにしている。	日常のくつろぎの時間や個別ケア時に、本人の思いを把握するように努めており、困難な場合は、家族の情報やこれまでの関わりの中から推測している。得られた情報を、職員は記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族や病院等から生活歴や趣味等聞き取りアセスメントし、その人らしい生活や望む生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の生活のペースやリズムを大事にし、日常の様子観察・把握を行います。できる事についてはなるべく自分でして頂けるよう自立支援に努め、又できるお手伝いをして頂くことで生き甲斐作りにつなげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を伺い、スタッフや関係者から情報収集し、必要なニーズを割り出し、実現していくための優先順位を本人家族、関係者で確認しながら介護計画を作成している。又月1回評価やカンファレンスを行い、見直しが必要などときには、介護計画に反映している。	本人や家族の要望や意見を聞き、家族も参加して担当者会議で介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施して必要時は見直しも行っている。1年毎及び状況変化時の見直しにより、現状に即した介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護支援経過記録に日常の様子、心身状態、本人が発した言葉は、なるべくそのまま記録し、スタッフ間で情報共有を行う。又変化や見直しが必要な場合は、その都度、スタッフ間で確認している。経過記録はケアプランに添った記録を付けるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方におられるご家族や通院への付添が困難と思われるご家族については、必要に応じて通院付添、送迎等の支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方がご高齢になられ訪問が難しくなり、やむを得ず中止となったり、又新型コロナも関係してボランティア訪問受入れも現在、困難な状況にあるが、現在は、地域の方（理容室）の訪問があり交流を楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の診察と内科医の訪問診察の実施。受診以外に主治医へ、随時、利用者の状態報告を行ったり、又かかりつけ医への受診はスタッフが付き添う。それ以外の他科受診については、基本は家族の付添であるが、家族の付添が困難な時は通院に付き添っている。現在、新型コロナ感染対策により家族による病院受診付添は行っていない。	本人や家族の希望するかかりつけ医であり、月2回の訪問診療及び週1回の看護師訪問があり、24時間医療連携体制が築かれている。他科受診は職員が同行支援し、結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期の訪問看護師への状態報告や相談を行い、看護のアドバイスももらっている。夜勤は大半は母体病院の看護師が夜勤を行い健康管理や状態の変化にも対応できている。母体病院の受診の際、看護師への連絡報告の際、相談にも応じてもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際、病院への情報提供や面会を行っている。又その際、病院スタッフから情報収集・交換も行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の対応は、契約時に説明し、同意を得ている。今後、利用者の身体状況に応じて、本人・家族、医師・スタッフ間で話し合い連携をとりながら支援に取り組めるようしている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明し、同意書ももらっている。重度化等の場合、主治医から家族への説明時に管理者が同席し、家族の意向を確認している。看取り介護については、家族の意向に沿って医師・職員・看護師等のチームで支援に取り組むようにしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時の対応・手当について勉強をしたり、又消防の研修でも心肺蘇生法・AEDの使用方法についても学んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力のもと、防災訓練年2回実施。通報・避難・消火訓練を行ったり、地域の関係者の方の参加や母体病院の防災訓練にも参加し、協力体制ができている。</p>	<p>年2回昼夜想定で避難訓練を実施している。法人全体の訓練や防災会議・通報訓練に参加している。今年度はコロナの影響で消防署の立ち会いは無く、母体法人職員の協力を得て実施している。家族や地域住民の参加協力は声掛けしていない。非常用の備蓄は、3日分の水・乾パン・カップラーメン・缶詰等を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や倫理及び尊厳、プライバシー保護について研修会参加、年2回接遇チェックリストの作成自己評価を行い、プライバシーや自尊心を大事にした対応や声掛けを行うようスタッフ間で心掛けている。	接遇研修で、職員は誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について研鑽している。年2回接遇チェックリストにより、自己評価を行い、個人情報保護やプライバシーに関する研修会も行っている。馴れ馴れしい言葉を使わない、さん付けで呼びかける。排泄介助時のさり気ない声かけ・対応等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に応じたコミュニケーション方法で支援している。言葉以外に表情や態度から思いや願い等を確認し、利用者の立場に立った支援をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の生活の流れはあるが、本人の体調や状態に応じたり、又希望がある場合は、本人が過ごしたいようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人ができる身だしなみは自分で行ってもらっている。服を選ぶ際、ご本人に確認している。散髪は美容室の方に来てもらい本人の好みを聞きカットを実施している。現在は、新型コロナの関係で、対応はできていないが、以前は市内の美容室でのカットやご家族のカットも希望に応じて実施していた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人敷地内に農園・パン工房・鶏舎があり新鮮で安全な食材を提供している。季節事の行事食、外食、又誕生日には手作りケーキや夕食に特別に誕生日メニューとして本人の好きな物を提供したり、利用者参加での調理活動も行っている。食後のお盆やテーブル拭き等のできるお手伝いをお願いしている。	旬の野菜や新鮮な食材を個々に応じた食事形態で提供している。下ごしらえや梅干し・ジャム・味噌作りを利用者と一緒に行ったり、誕生日のケーキや特別メニュー、行事食等で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎日、チェックし、バランスのよい献立作りに努めている。本人の食事摂取状態や嗜好等を考慮し、個別に食材等を購入したり外食を計画している。水分量が足りない時は、汁物やお茶等で必要な水分が摂れるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前後のうがいの声掛けや個別に誘導し見守り介助を行っている。夕食後は義歯洗浄し、入れ歯洗浄剤を使用している。昼食前、口腔体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や1人ひとりの排泄パターンの確認把握をし、随時、排泄状態に応じて、パット・おむつ使用の軽減を図っている。	日中はトイレでの排泄を支援しており、排泄パターンに応じて声掛け・誘導している。夜間は、身体状況等でポータブルトイレやおむつを使用する利用者もいる。個々に応じて自立に向けた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・繊維質の食材・果物等を取り入れたり、歩行運動や体操で排便を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本午前中の入浴実施であるが、利用者の意向、体調や排泄状況等、又冬場は風邪等感染症も考慮しながら入浴を実施している。	週2回午前中を基本に、希望や必要に応じて、いつでも入浴できる体制である。個浴も楽しんでいる。清拭や失禁時のシャワー浴を実施し、清潔に気持ち良く過ごせるようにしている。嫌がる場合も、タイミングをみて声掛けし、体調や気分を見ながら清潔で楽しい入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝やお部屋での休息は希望や状態に応じて実施している。夜間、入床時間は本人に任せておりTVを観たい方には観て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬をファイルし、随時、確認しながら服薬管理を行っている。状態の変化により、服薬が変更調整された場合は、記録し、スタッフで申し送り確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の得意分野を伺いながら、又1人ひとりに応じた家事やお手伝いをお願いしたりしている。昔、作っていた味噌作り、梅干し作り、ソバ打ち等、昔話をしながら各自の作り方等伺いながら一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に応じて、スタッフと一緒に近くのコンビニ（スーパー）や当法人施設パン屋に散歩も兼ねて買い物に出掛けたりしている。令和2年度は外出支援（ランチ外食等）については、新型コロナウイルス感染対策により実施していない。	天候の良い日は広い敷地内の散歩やウッドデッキで外気浴をしている。本人の希望等で近所の店で買い物や受診帰りに馴染みの所に寄ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のコンビニ、スーパー衣料品店での買い物支援時、支払いのできる利用者には、本人にお金を渡して買い物を楽しんでもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族と電話で話したり手紙の書ける方には、お手紙（年賀状）支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールリビングから台所が見えスタッフが作る食事の匂いをかいだり、又台所に目をやりながら「今日のご飯はなんやろか」「お腹がすいた」と言われる。テーブルには季節の花を置く事もある。廊下の壁には、行事の写真や作品を掲示している。又リビングホールには空気清浄機を置き、感染対策にも気を付けている。	リビングは大きな窓があり採光もよく、ウッドデッキに出て外気浴も楽しめる。空気清浄機やエアコンで適度な空調環境が整っている。キッチン是对面である。季節の飾り付けやプランターに植えている花や野菜で季節を感じる。廊下には作品や行事の写真を掲示し、椅子も配置し、居心地よく暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き自由に使ってもらっている。又天気の良い日は、ウッドデッキから外を見たり日光浴を行っている。又ホールリビングには、仏壇を置き、いつでも各自が拝んだりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・自分で描いた塗り絵・活動で作った作品・本人の好まれる物を部屋の壁やダンスの上に飾っている。	居室には、ベッドやダンス・エアコンを備えている。本人の必要に応じて、ラジオや時計・暦・寝具・衣装ケース等を持ち込んで、作品や写真を飾る等、本人が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、歩行器や車椅子を置いているが、利用者の通行の妨げにならないようにしている。各居室には備え付けのダンスを置いてあり、更衣等ができる方には、毎朝、自分で着替えを行ったり、洗濯物を畳んでダンスにしまうまでして頂いている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない